



新受験ゼミナール

私の学習法 - 一級土木施工管理技士①

継続は力なり～合格からの逆算思考～



シーエヌ建設
土木建築部 豊橋工事務所

古川 誠 (27歳)

HURUKAWA MAKOTO

取得資格: 1級土木施工管理技士
取得年度: 平成30年

1. 受験に至る経緯

私は、現在、東海道新幹線の大規模改修工事に従事しています。請負金額数億円の工事を担当する元請会社の社員として、監理技術者資格の取得は必須です。

そして、監理技術者資格取得の条件である1級土木施工管理技士の最短合格を目指すため、及び非常に多様な工種で構成されている大規模改修工事について、より理解を深めるため、自己啓発の一環としても早いうちに勉強しておくのは良いことだと考え受験しました。

2. どのように勉強したか

◀学科試験にむけて▶

まず学科試験ですが、施工経験が少なく専門的な知識も乏しい私が、何をどうすれば合格ラインの60%に到達するのか考えていたところ、試験の出題傾向として例年一定数の問題が過去問と同様の問題であることがわかったので、「過去問題を完璧に解けるようになる = 学科試験60%以上」と結論づけ、目標にしました。

しかし、試験に受かるためだけの短期集中型の勉強では今後の自分のためにならないと思い、「どんなに忙しくても1日に1年分の過去問題を解く、時間があってもそれ以上は解かない」ことをルールとし、目標を達成するためにどれだけの期間が必要かを考え、1年分/日×6日(24～29年度分)×4周=24日≒1ヶ月と設定して、そのとおり試験1ヶ月前から勉強を開始しました。

問題を解いていくにつれ理解度も増し、日々の勉強時間も少なくなるため、担当工事の竣功検査等もあり非常に忙しい時期ではありましたが、私としては非常に無理なく有意義に勉強することができました。

◀実地試験にむけて▶

次に実地試験ですが、1番重要であり鬼門なのが経験記述でした。現場経験が豊富な方ならスラスラと書けるの

でしょうが、当時入社4年目の私には非常に高いハードルでした。

分量が多いため、出題頻度の高い管理項目に絞ってなんとか自分の現場で経験したことを書き連ね、1級土木資格を所有している上司の方に教わりながら文章を構成していき、とにかく口に出して書いてを繰り返して丸暗記しました。

また、実地試験にも専門分野に関する筆記問題があります。勉強方法は基本的に過去問題頼りですが、学科試験でベースができていたり、問題量が少ないことを考え、こちらは2年分/日×3日×2周=12日≒2週間で十分と判断し、学科試験の合格発表から実地試験まで約1ヶ月半ありましたが、とにかく配点が高い経験記述に残りの約1ヶ月を割り振れるように勉強しました。

3. 特に苦労したこと

私の仕事が鉄道土木という特殊な業種のため、一度も見たことのないような工事の分野ばかりでイメージするのに大変苦労しました。

先にも述べたように自己啓発も兼ねて受験でしたので、わからない事柄については会社の上司に尋ねたり、参考書の解説図等で確認し、問題の意味や各選択肢の意味をしっかりと理解して自分の身になるよう解いていくことを心掛けました。

4. 今後受験する人へのアドバイス

1級土木施工管理技士は私のように施工経験の少ない人が一夜漬け等のやっつけ勉強で受かるような試験ではないと思います。そのため、経験の差を補って目標点に到達するにはどれだけの量を日々どのように勉強していけばいいか考えて逆算し、余裕すぎず詰めすぎない勉強をするといいかと思います。



新受験ゼミナール⑤

私の学習法 - 一級土木施工管理技士②

丸暗記だけでは合格できない!



九鉄工業
北九州支店 折尾高架軌道作業所

大田 昌孝 (31歳)
O T A MASATAKA

資格取得: 1級土木施工管理技士
取得年度: 平成30年度

はじめに

鉄道工事の現場監督に従事する私たちは、まず“監理技術者資格の取得”を目指すことがほとんどではないでしょうか?ここでは、線路の保守作業(総つき固め、レール交換、路盤改良、MTT等)に従事しながら1級土木施工管理技士を取得した私の学習法について紹介します。

1. 学科試験

学科試験の勉強法は、今から受験される方が上司、先輩に尋ねると必ず「過去問を解きまくるしかないよ」と言われることがほとんどだと思います。まさにその通りです。学科試験は、過去問と類似したような問題が出題されることがほとんどです。過去問を10年分繰り返し解くことで学科試験の合格が見えてくると思います。

2. 実地試験

ここが最大の難関です。専門分野に関する筆記試験と経験記述は私も大変苦労しました。

まず、経験記述ですが、先輩が合格したときの経験記述を丸暗記しようとしていませんか?それでは合格できません。なぜなら、自分の経験ではないからです。採点される方は文章を読むプロなわけで少しのミスも見逃しません。線路の保守にしか従事したことのない私たちは施工経験が少なく苦労するところだと思われがちですが、私なりのポイントを述べます。

まずは、自分自身どんな工事に従事したか改めて考えてみるのが重要です。例えばロングレール交換に伴う設定替の場合、設定替の工法の選定、当日の温度等の施工条件では「品質管理」を書くことができます。また、設定替の工法を選定するときに線路閉鎖の時間内で工事が完了するための検討は「工程管理」の記述ができま

す。準備作業をするときに列車見通し距離を確保するため、列車見張員を増員することは「安全管理」に当たります。自分が施工したときの事を思い出しながらかき出すと意外にすらすらと文章が書けるものです。

私が考える経験記述で1番大事なことは、「起承転結」の文章になっているかということです。これは見落としがちですが、非常に重要です。参考書にはこの起承転結をわかりやすく解説しているものがほとんどです。読み手に自分が経験した工事を理解してもらうことが、経験記述で得点を得られる方法だと私は考えます。

専門分野に関する筆記試験は、私自身はこれが最大の難関でした。例えば軟弱地盤対策としての工法を選び期待される効果を記述する問題があります。線路の保守作業しか従事していない私は丸暗記するしかありませんでした。しかし、仕事をしながら勉強となると、膨大な問題を丸暗記することは不可能です。ここでは、過去問を丸暗記ではなく過去問をから出題された問題の解答をポイントで覚えて文章を組み立てていく方法がベターだと思います。

3. 合格するためには

学科試験、実地試験とポイントを本稿で述べましたが、私自身合格につながったもう一つの大きなポイントとして、社外の集中講義(実地試験対策)へ会社から参加させてもらったことが合格へ大きくつながったと思います。現場の業務が忙しい中、1級土木施工管理技士に合格するために会社として勉強会や集中講義等を開催すること、参加させることは、勉強する時間の確保という観点からも有効な手段であると考えます。

最後に私の拙い体験談が、これから試験に挑戦される皆様に少しでもお役に立てれば幸いです。



新受験ゼミナール⑧

私の学習法 - 一級土木施工管理技士③

諦めない気持ちを持って



峰製作所
名古屋支店長

浅川 純 (47歳)
ASAKAWA JUN

資格取得: 1級土木施工管理技士
取得年度: 平成22年度

1. 試験への挑戦

私は、レール溶接工事部門で、施工管理、安全管理等の業務に就いています。約10年前、会社から1級土木施工管理技士の資格取得を命じられ、そこから合格するまでに長い年月がかかりました。

学校を卒業して以来、真剣に勉強に取り組むことがなかった私にとって、職務であるレール溶接工事以外のより幅の広い専門的な知識を学習することは難しく、合格できるかとても不安でしたが、何としてでも合格してやろうと気合を入れて取り組みました。

2. 合格にむけて

学科試験(1次)については、社外講習の受講と過去問題の学習に集中しました。簡単ではありませんでしたが、2回受験し2回とも合格することができました。

実地試験(2次)には、経験記述と筆記問題があります。経験記述について悩んだのは、私が経験しているのはレール溶接工事であり、土木工事はほとんど経験したことがなく、何をテーマに書こうか分からないことでした。結局、自分が経験したレール溶接工事について書くことにしました。そして、会社内で資格を持っている先輩方からご指導いただき、修正や訂正を繰り返しながらなんとか完成させることができました。また、どのような問題が出題されてもいように数種類作成して暗記し、問題を見たら迷わずに書けるよう準備しました。

次に課題だったのが筆記問題です。専門分野に関する記述問題で、聞き慣れない専門用語が多く、一つ一つ理解するのに多くの時間を要しました。それでも理解して覚えられないといけないので、時間の許す限り、繰り返し過去問題を解き、その内容をノートに書いて何度も復習しました。

それでも1回目が不合格、2回目も不合格、3回目も不合格となり段々と自信がなくなってきました。もう合格するのは無理かなと諦めかけていましたが、周囲の方々に励ま

れたおかげで気持ちを切り替え再度挑戦しようとする意欲が湧いてきました。

さすがに回を重ねるうちに専門用語の意味が理解出来るようになり、4回目にしてやっと合格することが出来ました。合格するのに約4年も掛かってしまいましたが周囲の方々に支えられ受験に挑戦してきた4年間は決して無駄ではなかったと思いました。

3. 苦勞したこと

勉強方法は様々ですが、この資格を受験されるほとんどの方が仕事をしながらの受験となるため、勉強時間の確保に苦勞すると思います。私が資格取得の勉強を始めた当時、まだ子供が幼く、自宅で勉強することができないため、休みの日には図書館へ通い、勉強に励みました。

また、前述したようにレール溶接工事外の専門用語が理解できなかつたため、土木工事の現場に会社の先輩と赴き、実際に現場で施工している工法等の説明を受けました。具体的に言えば、場所打ちコンクリート杭の施工現場では、ケーシングチューブを押し込みながらチューブ内の土砂をバケツで掘削し、鉄筋かごを建込後にコンクリートを打ち込む工程と、生コン車が到着した時はスランプ試験、空気量測定試験の工程を目で見て勉強することによって理解が進み、土木工事の全体像が何となく分かるようになりました。

4. 今後受験する方へ

仕事や家庭を持ちながら、合格するというのは並大抵の努力ではできないと思いますが「必ず合格するぞ」という強い気持ちを持つことがとても大切です。

また、可能であれば、一級土木施工管理技士資格者から分からない内容を教えていただいたり、実際の土木工事現場へ見学に行き、専門用語を理解することが近道だと思います。

私の経験が受験者の皆様の参考になれば幸いです。



新受験ゼミナール⑫

一意奮闘



仙建工業(株)
盛岡支店宮古出張所 副所長
佐々木 啓人 (28歳)
SASAKI HIROTO

資格取得:1級土木施工管理技士
取得年度:令和2年度

はじめに

私は令和元年度が初回受験でしたが実地試験で不合格でした。その後出会った上司から、「建設業の元請会社として監理技術者の資格は必須だね」と言われました。初年度受験した時の気持ちとしては、「会社から取得するように言われていたから取得を目指す」という安易な気持ちでした。しかし、前述の上司の言葉から「1人前の技術者になる為に絶対合格してやろう」という「本気になって学習するぞ!」という気持ちに切り替えることが出来ました。私の日常業務と両立し取組んだ1級土木施工管理技士取得までの奮闘について紹介します。

1. 学科試験に向けた取り組み

令和元年度、初受験ということで取得に向け、会社から社外講習会へ参加させていただきました。講習では様々な工種、項目に対する基本を学びました。基本学習は毎日の積み重ねが大切です。そこで春から学科試験まで毎週日曜日に講習を受講。また7年前位までの過去問題を1年ずつ毎週繰り返し解くことにしました。私自身2級土木施工管理技士受験時に過去問題をひたすら解き解説を読むことで、経験のない部門においてもイメージが膨らみ理解することができたことを覚えております。

2. 実地試験に向けた取り組み

記述問題対策としては社外講習や過去問題を解くことにより対応できると思いましたが、やはり経験記述問題に関しては設問に対して自らの経験による取り組み内容を採点者へわかりやすく伝えないと合格水準に達しないと思い、経験記述対策を重点的に取り組みました。職場の方や講

習会の先生などに添削してもらい、繰り返し書くことで記憶することとしました。また複数の項目に対して全てを記憶することは難しいと判断し、出題頻度の高い項目3つに絞り取り組むこととしました。いざ受験してみると、品質管理という項目だったことで準備していたので問題無く自信をもって記載することができました。その他の記述問題に関しても比較的解きやすい問題であり手ごたえはあったのですが令和元年度の受験は前述の通り不合格でした。後日解答例を確認したところ、私の記述問題の解答には曖昧な表現が多く正答例のように問題に対してポイントを絞った解答を記載出来なかったことが原因であると感じました。よって令和2年度は試験3ヵ月前から「毎週1年分の経験記述も含めた過去問題を解くこと」、「毎日業務が忙しくても最低1問は過去の記述問題を解くこと」に重点を置き取り組みました。普段の業務をこなしながら勉強時間を確保することはなかなか難しいと思いますが現在はインターネット社会ということもあり、検索すれば例題があり、いかなる環境であっても受験勉強に継続的に取り組むことができました。

おわりに

経験記述の設問が前回と同じ品質管理であり、非常に動揺しましたが繰り返し経験記述を記載する取り組みを行っていたことで自然と記述することが出来ました。今回の経験から合格する為には短期間の取り組みでは難しく少しずつでも継続的に取り組むことが大切だと実感しました。

拙い文章ではありますが取り組みの紹介とさせていただきます。令和3年度から建設業法改正により試験内容が再編されます。初年度ということで対策が難しいとは思いますが受験される皆様の合格を祈念しております。



新受験ゼミナール⑫

今後の自分に生きる受験勉強を！



札幌工業株式会社
土木本部 土木工事事務 工事2課

荒木 健人 (30歳)
ARAKI KENTO

資格取得：1級土木施工管理技士
取得年度：令和2年度

はじめに

私は現在、河川改修に伴う鉄道橋の架替工事に元請会社の技術職員として従事しています。一級土木施工管理技士及び監理技術者資格の取得は土木技術者としてのスタートラインに立つべく必須条件であるため、何としても一級土木施工管理技術検定に合格しようと気合を入れて受験勉強に取り組みました。大学を卒業して以来、真剣に勉強に取り組むことが無かった私が、鉄道工事の現場に従事しながらこの検定に合格した学習法について紹介します。

1. 学科試験

学科試験は過去に出題された問題に類似したものが多く出題されるため、主に過去問題を繰り返し解いていくことが最も効率的な勉強法だと考え、過去10年分を正答率80%以上にすることを目標として取り組みました。

私自身が経験したことのない分野の工種や工法についての問題も多く、非常に苦労しました。問題と答えを丸暗記するだけでは、試験に受かるためだけの勉強になってしまうと感じたため、今後の自分のためにも苦手の分野の問題も問題集の解説や参考書を確認し、問題の意味を理解してから次の問題に進むことを心掛けました。

勉強は現場事務所で朝礼前と業務終了後に時間を作って行いました。1週間に5年分を解く無理のないペースを設定し、試験の約1ヶ月前から勉強を開始しました。

2. 実地試験

実地試験の1番の難関は経験記述でした。私は文章や論文を書くことが苦手で、最初はどのように書き始めたら良いのかわかりませんでした。まずは先輩が合格した時の経験記述論文を読み、文章の構成を参考にしました。専門

的なことを無理に難しく書こうとせず、どのようにすれば自分が経験した工事の内容を読み手に理解してもらえるかを考えて書くことを心掛けました。文章は上司に添削してもらい、直接教わりながら何度も修正、添削を繰り返して仕上げました。

筆記問題は学科試験と同様に過去問題を繰り返し解きました。学科試験と同様に今後の自分の仕事に活かせるよう、内容を十分理解できるまで取り組みました。私は苦手だった労働安全衛生規則について、重点的に勉強しました。

3. 合格するためのポイント

私が合格につながったポイントは3つありました。①日本鉄道施設協会主催の直前ゼミナールの受講②社内集中勉強会への参加③社外実地試験対策講座の受講

これらは、現場の業務が忙しい中でも勉強時間を確保できるよう会社が支援してくれたものです。これによって「必ず合格する！」という強い気持ちを持つことができ、合格に向けてモチベーションの維持と向上に繋がりました。

4. 今後受験する方へ

一級土木施工管理技術検定は、一夜漬けなど短期間で詰め込む勉強法では合格は難しいと感じました。現場業務がある中、自分なりの目標と無理のないペースを設定することが大切だと思います。また自分一人の力では合格は難しく、経験の無い工種等は会社の上司や同僚から経験談を聞いたり写真を見せてもらったりしてイメージを固めていくことが合格への近道だと思います。

最後に私の経験が受験者の皆様の参考になれば幸いです。